

ごみの増加による

影響と削減効果

ごみが増加するといういろいろな影響が出ます

「広報うしく6月1日号」でお知らせしたとおり、平成23年度のごみ総排出量は2万9280トンに増加し、ピーク時の平成18年度に迫る勢いとなっています。このままごみを排出し続けると、私たちにどんな影響があるか考えてみます。

①地球温暖化の進行

地球温暖化の原因である温室効果ガスは、家庭からも大量に排出されています。もちろんごみの排出量が増えていけば、牛久クリーンセンターでの焼却量が増え、温室効果ガスの一つであるCO₂の排出量が増えてしまいます。このままごみを排出し続けると、後世に大きな負担を残すこととなります。温室効果ガスの削減は、早期に取り組まなければならない環境問題です。

②ごみ処理経費の増加

毎年、ごみ処理を行うために約10～12億円の経費が掛かっています。ごみ処理量が増えれば、処理経費も増えていきます。ごみ処理量を削減することができれば収集経費や焼却経費、埋め立て処分経費を削減

することができず、**③最終処分場の逼迫**

当市は、自前の最終処分場を持っていません。そのため、ごみ焼却後の灰は北茨城市、笠間市、山形県米沢市などの市外の最終処分場で埋め立て処理をしています。できるだけ埋め立て量を削減し、最終処分場の延命化に努める必要があります。

ちよつとした分別で、約5000トン

以上のごみが削減できます

ごみ処理量の増加による私たちの生活への影響を最小限とするために、約80%を占める家庭系ごみをいかに減らすかが大きな課題となっています(図1)。

図1. 家庭系ごみ量と割合

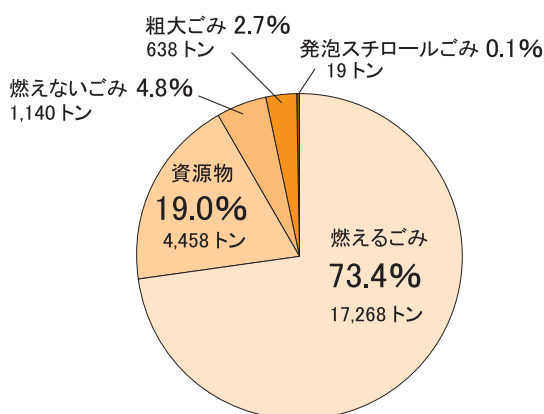


表1. 燃えるごみの中の削減可能なごみ重量

削減可能なごみ	種別	割合 (%)	重量 (トン)	市民1人1年当たり (kg / 年)	市民1人1日当たり (g / 日)
	生ごみ	約10.5	1,818	22.20	60.82
	レジ袋	約1.7	287	3.50	9.59
	紙類	約13.9	2,400	29.30	80.27
	その他	約6.2	1,071	13.08	35.84
合計		約32.3	5,576	68.08	186.52

平成22年度に燃えるごみ分析を実施したところ、資源物が混入していたり、無駄に捨てられているごみが多いことが分かりました(表1)。

平成23年度の市民1人1日当りのごみ排出量は638グラムなので、減量目標値(平成27年度)である531グラムと比べると、107グラム多い状態です。しかし、私たちが生ごみの削減や資源物の分別の徹底を実践すれば、十分に達成できる目標です。

ごみが増えれば増えただけ処理経費が掛かります。もし、5000トンのごみを削減できたら、約1億7000万円の削減になります。この削減された経費を他の公共事業に使う方が私たちのためになります。

身近なことからエコライフを始め、自然環境の保護や生活環境の向上に努めてみましょう。

生ごみ処理容器などの購入に補助金を交付しています！

平成24年度も家庭から発生する生ごみを堆肥化または減量化するため、生ごみ処理容器・機器などの購入費および修繕費に補助金を交付しています。詳しくは、廃棄物対策課(内線 ☎ 1571～1573)までお問い合わせください。